

「ベイズ統計の理論と方法」  
Chapter 2, p.49-

@tmiya\_

June 28, 2017

# ベイズ統計理論の構造

- (1) 平均対数損失関数  $L$  を最小にするパラメータの集合  $W_0$  を求める。

$$L(w) = -\mathbb{E}_X[\log p(X|w)]$$

- (2)  $w_0 \in W_0$  を用いて対数尤度比関数  $f$  を定義し、経験誤差関数  $K_n$  を求める。

$$f(x, w) = \frac{p(x|w_0)}{p(x|w)}, \quad K_n(w) = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n f(X_i, w)$$

- (3) 一般分配関数  $Z_{n,k}$  の挙動を解明し  $\mathcal{L}_k(X)$  を計算する

$$Z_{n,k}(\alpha, \beta) = \int (-f(X, w))^k e^{-\alpha f(X, w) - n\beta K_n(w)} \varphi(w) dw$$

$$\mathcal{L}_k(X) = \frac{\mathbb{E}_w[(-f(X, w))^k e^{-\alpha f(X, w)}]}{\mathbb{E}_w[e^{-\alpha f(X, w)}]}$$

- (4) 正規化された自由エネルギー  $F_n^{(0)}$  の挙動がわかる

$$F_n^{(0)}(\beta) = -\frac{1}{\beta} \log Z_{n,0}(0, \beta)$$

- (5) 定理 1 から汎化損失  $G_n$  と経験損失  $T_n$  の挙動がわかる。

この方針に従って 3 章では事後分布が正規分布で近似できる場合、4 章では近似でき無い一般的な場合の理論を作る。